

平成 28 年度 糸魚川市教育課程部 活動報告

部長 田中 和人

1 糸魚川市教育研究会の活動方針と組織

糸魚川市では、市内の小・中学校、特別支援学校の教職員で「糸魚川市教育研究会」を組織し、学校教育の振興を図っている。研究推進の組織は、各教科等（10）、道徳、特別活動、保健、栄養、事務の 15 部会（全会員が一人一部会所属）の他に、キャリア教育、学校図書館、生徒指導、へき地・複式、情報教育、特別支援教育、人権・同和教育の 7 部会の合計 22 部会で構成している。その中には、教育課程部会は設けられていない。そこで、糸魚川市の特色ある取組「ジオパーク学習」について報告する。

2 糸魚川市子ども一貫教育に基づく「ジオパーク学習の充実」に向けた取組

糸魚川市教育委員会では、平成 22 年度に「子ども一貫教育基本計画」を作成し、翌年度から各校及び中学校単位での実践的な取組を行っている。「ひとみかがやく日本一の子ども」を目指して「健やかな体」「豊かな心」「確かな学力」「特別支援教育」「ジオパーク学習」の 5 つを「育てたい力」として掲げている。中でも特徴的なのが「ジオパーク学習」である。ジオパークについては、平成 27 年 11 月の第 38 回ユネスコ総会の本会議において、ユネスコ正式事業化の審議が可決され、当市ではこれを契機に一層のジオパークの周知、活用を図っていく方針である。

（1）糸魚川ジオパーク学習交流会

各校のジオパーク学習の内容を発表し合う「糸魚川ジオパーク学習交流会 2016」が 11 月 25 日（金）に糸魚川市民会館を会場にして行われた。交流会は、毎年行われ、本年度は小学校 11 校、中学校は 1 校、高等学校 2 校が参加した。各校が一堂に会し、学んだことや感想を発表し合うことで、糸魚川についての新たな知識を得たり、愛着を深めたりする良い機会になっている。

（2）教科等の学習とジオパークとを関連付けた副読本や資料の作成とその活用

理科学習の副読本として、平成 23 年度には「小学校 5・6 年生用のジオパーク理科副読本」を、平成 24 年度には、「3・4 年生用のジオパーク理科副読本」と「世界ジオパークまるごと糸魚川資料集」が作成され、児童・生徒及び教職員に配付された。現役の教職員が中心となり、大学教授や地元の関係者などの協力を得て作成された副読本と資料集は、理科や社会科、総合的な学習の時間などで有効に活用されている。また、学級づくりを兼ねて「ジオ遠足」を実施し始めた中学校もある。

（3）糸魚川市ジオパーク推進室と連携した「中学生香港派遣」や「ジオ給食」の実施

世界ジオパーク姉妹都市である香港への中学生派遣事業（当市の中学校 3 年生が対象）は、今年度で 6 年目を迎えた。香港ジオパークを見学することで、身近にある糸魚川ジオパークの素晴らしさを再認識し、国際感覚を磨くことを目的として行っている。また、食育の一環として、各校独自に地場産の食材や食文化を取り入れた毎月一回の「ジオ給食」を実施している。

3 成果と課題

糸魚川市では 6 年前からふるさと糸魚川への愛着形成を図ることを目的として、上記のようにジオパーク学習の充実に努めてきた。その地道な取組により、全国学力・学習状況調査の児童質問紙調査では「地域の行事への参加」や「地域や社会への関心」の項目で、県や全国を上回る数値を示すようになった。今後は、この成果を大事にしながら、いかに園・小・中・高等学校が体系立ってジオパーク学習を推進していくかが課題となる。そのために、家庭、園・学校、地域の連携を一層図っていくことも視野に入れていく必要があると考える。